

# VOICE OF DESIGN

日本デザイン機構 Japan Institute of Design

東京都港区虎ノ門1-2-18虎ノ門興業ビル7F 〒105-0001

Toranomon Kogyo Bldg.7F 1-2-18 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001 Japan  
Phone:(03)5521-1692 Fax:(03)5521-1693 http://www.voice-of-design.com 2000年7月15日発行

VOL.6-1

## 特集

クルマ社会・水環境

トークセッション

2000年6月7日(水)

国際文化会館



at the Ms. Sadako Ogata UN High Commissioner for Refugees.

緒方貞子国連難民高等弁務官事務所にて

## 地球社会へのデザイン創造

日本デザイン機構会長 栄久庵 憲司

## 目次

- ・地球社会へのデザイン創造：栄久庵憲司……………1～2
- 特集 クルマ社会・水環境**
- トークセッション：**
- ・テーマ解説 伊坂正人……………3
- ・JD プロジェクトテーママップ……………4
- ・ホロデザイン 水野誠一……………5
- ・トータルデザイン 田村 明……………6
- ・デザインに幸福発想を 犬養智子……………7
- ・デザインが今やるべきこと 石山修武……………8
- ・消費社会の行方 佐野 寛……………9
- ・フィッティングデザイン 鴨志田厚子……………10
- ・公共デザインからの見方 西澤 健……………11
- ・途上国支援 松本 洋……………12
- ・ランドスケープデザイン 小林治人……………13
- ・エルダリー社会におけるソーシャルデザイン  
田村国昭……………14
- ・総括 栄久庵憲司……………15
- ・特別発言 木村光……………16～17
- インタビュー：**
- ・医療援助NGO  
メドゥッサン・デュ・モンド ジャパン ……18～19
- 事務局から……………20**

## Special Issue

Motorized Society / Water Environment

## CONTENTS

- Remarks……………1～2
- Talk session……………3～17
- Interview……………18～19
- From the Secretariat……………20

日本デザイン機構は、今の地球社会を見つめた色々なテーマを出してきました。昨年はDesign for the Worldと連携して、「地球をデザインする」というテーマのもと当機構が検討してきたテーマを世界の眼で確認できたのではないかと考えております。そうしたなかで、そろそろ大きな筋道をつける時期を迎えました。1年間を継続的に焦点を絞ったテーマで色々なことを検討する、そうした運動の質が求められています。

近代化の路線に沿ってデザインは消費社会の諸問題を抱え、水野誠一理事からは「ソーシャルデザイン」というデザインと社会の新たな切り口が提案されました。ソーシャルデザインは社会へのお役立ちという面と、それが社会のなかでどう定着するか、そのための経済をどうするか、最新の技術をどう生かすかなどの

面をもったものだと思います。

先頃Design for the Worldの関係のなかでジュネーブで国連難民高等弁務官の緒方貞子さんにお会いしました。世界の諸問題にぶつかっていかうとすると、難民とか避難民の問題がどうしてもでてきてしまいます。当機構でも石山修武理事を中心にそうした課題へのアプローチがありますが、そうした課題へ具体的にどうぶつかっていけばよいのか、疑問をもっていましたのでお会いしたわけです。例えば、難民・避難民に対しての救済対策はデザインとしてどう関係を置くのかなどです。お伺いして非常に良く分かりまして「なるほど、そうか」と。新鮮なうちにそれを皆さんにお話ししておいた方がよいかと思ひまして、今日は資料を持って参りました。

ジュネーブの国連難民高等弁務官事務所

## Design Creativity for the global society

Japan Institute of Design has taken up many themes about the contemporary global society. In 1999, these themes became major agendas for the activities of "Designing the Globe" by Design for the World. It is now the time for us to narrow our themes to examine fewer questions in depth.

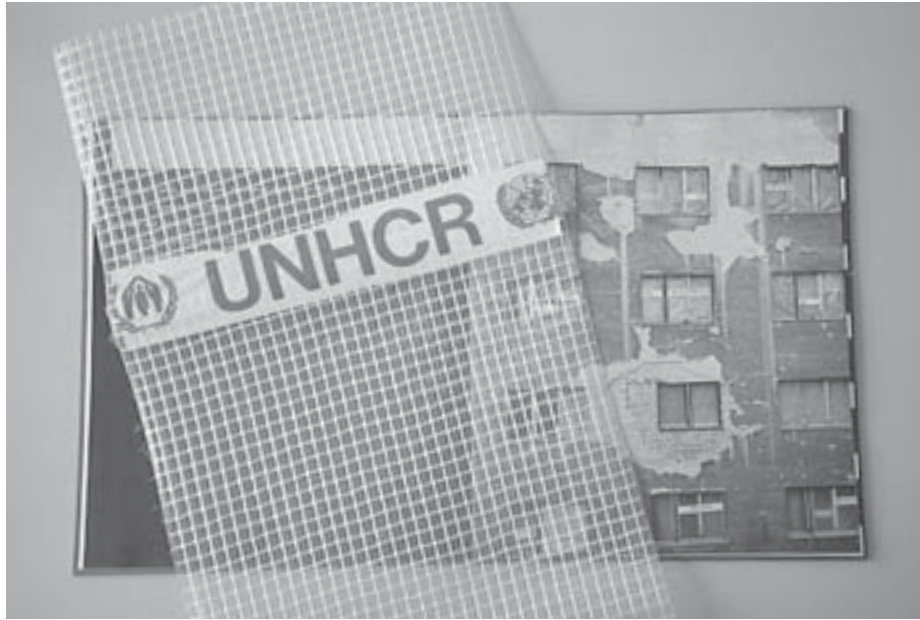
Along with modernization, designers are faced with the challenge of coming up with solutions to various problems arising from the consumption society. In past years, a new approach of "social design" was proposed as a way to involve designers more in the solution of social problems. Social design should aim to con-

tribute to society. Other than this, it must be considered how social design can firmly take root in society, how it is economically supported, and how the latest technologies can be employed by it. In addressing global issues, we cannot avoid the problems of refugees and displaced people.

Recently, I met Ms. Sadako Ogata, UN High Commissioner for Refugees in Geneva. JD has a group tackling the refugee issue. At that time, I wanted to clarify what designers could do to save refugees, so I discussed this problem with Ms. Ogata. After explaining about JD and Design for the World, I said to her that we wanted to contribute to the world.

# Design Creativity for the global society

栄久庵憲司



所は高層のなかなか立派なスイス建築で、国連のいろいろな事務所の一つですが、そこでお会いしたわけです。様々お話しして、日本デザイン機構の話や Design for the Worldの話しながら、なんとしてもデザイナーの立場として、また当機構も一種のNGOですが、NGOとして社会的なお役に立ちたいという事を申し上げました。

最初に言われたことは「ファッションでどういふふうに難民に貢献ができるんですか？」でした。そこで「ファッションでもアルミの薄い箔をうまく張りますと魔法瓶と同じように寒さを防ぐこともでき、且つ着ることもできます。」と答えましたら、「それは、いいですね」とおっしゃられた。話すなかで「ああ、そういうことなの」とだんだん解っていただきました。そして「今考えているとて

も良い例があります」と一枚のシートのサンプルを見せていただきました。(写真上)

空爆で破壊されたサラエボの街は近代化されたビル街でした。そのビル街のガラスが全部壊れている写真を見せていただきました。「これをどうやって助けます？」と訴えたかったのだと思います。それが課題だったのです。その課題に対してプロポーズがあった。それがファイバーをただ1センチ角に張り付けたビニルシートだったのです。考えてみると大



1-cm square fiber pieces were pasted. She told me the story about the sheet. When the question of protection against cold was brought up, the UNHCR staff began a project to devise a makeshift cover to protect people against cold. They brought the idea of this sheet to a maker for manufacturing and distributed sheets to the people in need. I said "It's exactly the work of design." She gave me an enlightening example of how design was related to various problems in the world. At the end of our discussion, she promised that she would ask UNHCR staff members to raise problems, and would inform us so that we could work to make greater contributions to the world.

変良くできています。

困ったという問題点がある、それをプロジェクト化してデザインする。そしてメーカーにもってゆき、できたものを貼って寒さをしのぐ。そういういきさつを話してくれました。これを膜にガラスに貼っていったんです。そこで「ああこれがまさにデザインなんです」と申しあげました。

このシートを貼るのに使うシールに UNHCR と大きく書いてあります。よく目立ちます。コカ・コーラより有名になったと冗談をおっしゃってました。

私も世界には様々な問題点があるのにどのようにデザインが繋がったらいいかとつくづく考えていたおり、ずばりこういうのを見せられ、目から鱗が落ちる思いをした次第です。そして緒方さんからは、UNHCRの世界に職員を通じて問題点を出してみましよう、それを是非とも参考にしていただいで世界的貢献をしていただければというようなお話がありました。今日もトークセッションでいろいろな話が出てくると思いますが、社会貢献という、まさにソーシャルデザイン、世の中のお役に立つための新しい創造のうねりというようなものを、当機構から引き出したいと念じております。

In the Talk Session, I hope that a new wave for social design to make social contributions will surge.

Kenji Ekuon / Chairman, Japan Insitute of Design

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### テーマ解説

伊坂正人

#### テーマ「クルマ社会研究」「水環境研究」について

日本デザイン機構は、教育のデザイン、安全のデザイン、公共のデザイン、循環型社会のデザイン、災害支援のためのデザイン、フィッティングデザインなど社会的な視点をもったテーマ設定をしてきました。これらは、近代化がもたらした文明の歪みともいえるべき現代の課題と言えます。このような課題に対しては、社会が総体として取り組まなければ解決の途が見えないという認識のもと、デザイン自らが専門の垣根を越えて、こうした社会課題へアプローチすることを「ソーシャルデザイン」としてとらえ、発言してきました。今まで提起してきたテーマは、社会課題をデザインのテーマとするための切り口でした。そしてこの切り口がデザインの先端領域を示してもいました。

こうした切り口を改めて横切りにし、東ね、より具体的な社会提言をする時期を迎えました。今、さかんに標榜されているユニバーサルデザインやエコロジカルデザインも具体的な落としどころ、デザインの対象を得ることが肝要と言えます。当会が討議してきた切り口の落としどころとして、現代の文明の歪みを受け、危機とも言うべき状況を抱えている具体的なデザインの対象は多々あります。そうしたなかで、本年度は我々の日常のなかで最も身近な存在である「クルマ」と「水」に焦点をあてたいと考えます。

「クルマ」は近代化を推進してきたシンボリックなものの一つです。クルマの出現

### JDトークセッション

期日：2000年6月7日（水）総会終了後  
プログラム

テーマ解説 伊坂 正人

参加者発言A テーマに関する総合的な視点  
：水野 誠一／田村 明／犬養 智子／  
石山 修武

現と普及によって都市が変わり、産業が構築され、大衆消費社会が形成され、人の心にも多大な影響を及ぼしてきました。一方、環境への負荷や資源エネルギーの浪費、社会的な弱者の取り残し、そして貿易摩擦や先進国と途上国との間の産業経済の乖離等々危機的状況をもたらしてもいます。「クルマ」を考えることは、こうした総合的な視野のもと、「クルマ社会」を考えることとも言えます。そしてその研究成果は個々のデザインの専門に具体的に落ちてくることとなります。

「水」もまた治水、利水といった人類史とともに今日の文明をつくってきた存在で、「水」無しに今日の生活を語ることはできないと言えます。現代の宇宙からの視座を得て、水惑星・地球が改めて認識される時代にあって、水をめぐる環境もまた飲料から景観にいたるまで危機を迎えている対象ととらえることができます。そして多くの専門デザインの具体的なテーマを抱えた対象でもあります。

2000年度のテーマとして、この2課題をおき、今までの切り口からの検討や、本日の提言を編集し、より密度の濃い研究事業の推進を図りたいと思います。

#### クルマ社会研究

**移動の価値、質と効率**（公共交通と自動車、競合と補完の関係／移動の自由とプライバシー等）、**持続可能なモビリティ開発**（都市化とエコモビリティ／途上国の地域・産業開発と自動車等）、**安全な移動と都市課題**（自動車と都市の

参加者発言B テーマに関する専門的視点  
：佐野 寛／鴨志田 厚子／西澤 健／  
松本 洋／小林 治人／田村 国昭

特別発言：木村 光一

総 括：栄久庵 憲司

司 会：佐野 邦雄

インテリジェント化／移動の体系と安全等）、**自動車と都市、造形表現の変遷**（工業化建築と自動車／自動車造形と産業技術等）、**新エネルギーの社会的受容の諸条件**（燃料電池普及の社会システム／モビリティにおける人力、再生エネルギー等）、**デザイン産業と自動車産業**（クルマ社会におけるデザイン諸専門の位置／デザイン諸専門と他専門の共同等）、**消費の象徴の変遷と自動車**（消費社会の憧れに関する国際比較／近代価値と自動車等）、**移動の権利とバリアフリー**（人口の高齢化が移動に及ぼす影響／国際移動のためのバリアフリー基準等）。

#### 水環境研究

**水に関わる文化・歴史遺産**（水文化の国際比較／水環境教育の実態と動向等）、**水と緑のネットワーク形成**（水環境保全のための生活規範／多様な生物と共生する生活文化等）、**水と持続可能な都市開発**（これからの水辺都市居住の諸条件／都市リノベーションと水の安定供給等）、**水景観づくりにおける地域特性**（歴史文化特性から見た水景観／水資源保全システムとしての景観施策等）、**治水・利水技術の未来像**（安全な水、安定した水の歴史／おいしい水・きれいな水の未来像等）、**水循環産業振興とデザイン**（水リサイクルのための総合デザイン施策／下水処理等におけるデザイン動向等）、**水資源有効利用の社会的条件**（節水型社会のための生活システム／生活設備機器の水収支等）、**水の感性とデザイン**（水に関わる感性科学の可能性／水がもたらす精神文化等）。

Researches on a Motorized Society and a Water Environment JD researches for 2000 will focus on "Motorized Society" and "Water Environment".

#### \* Motorized Society

Values, Quality and Efficiency of Mobility (Public transportation and vehicles / Competitive and complementary relations / Freedom of movement and privacy) Sustainable Mobility Development (Urbanization and ecological mobility / Community and industrial development of developing countries and vehicles) Safe Mobility and City Problems (Intellectualization of vehicles and cities / Mobility and safety systems) Vehicles and Cities, and Changes in Figures (Industrialized

architecture and vehicles / Vehicle models and production technologies) Conditions for New Energy Sources (Social systems for spreading fuel cells / Man power and recycled energy for mobility) Design Industry and Motor Industry (Positions of designers of various genres in a motorized society / Collaboration among designers and other professionals) Changes in 3 / Values) Right to Move and Barrier-free Transit (for elderly people / international standards)

#### \* Water Environment

Water-related Cultural Heritage (Water culture / Education) Water-Greenery Networking (Rules to keep water clean / Cohabitation with living things) Water and Sustainable Urban Development

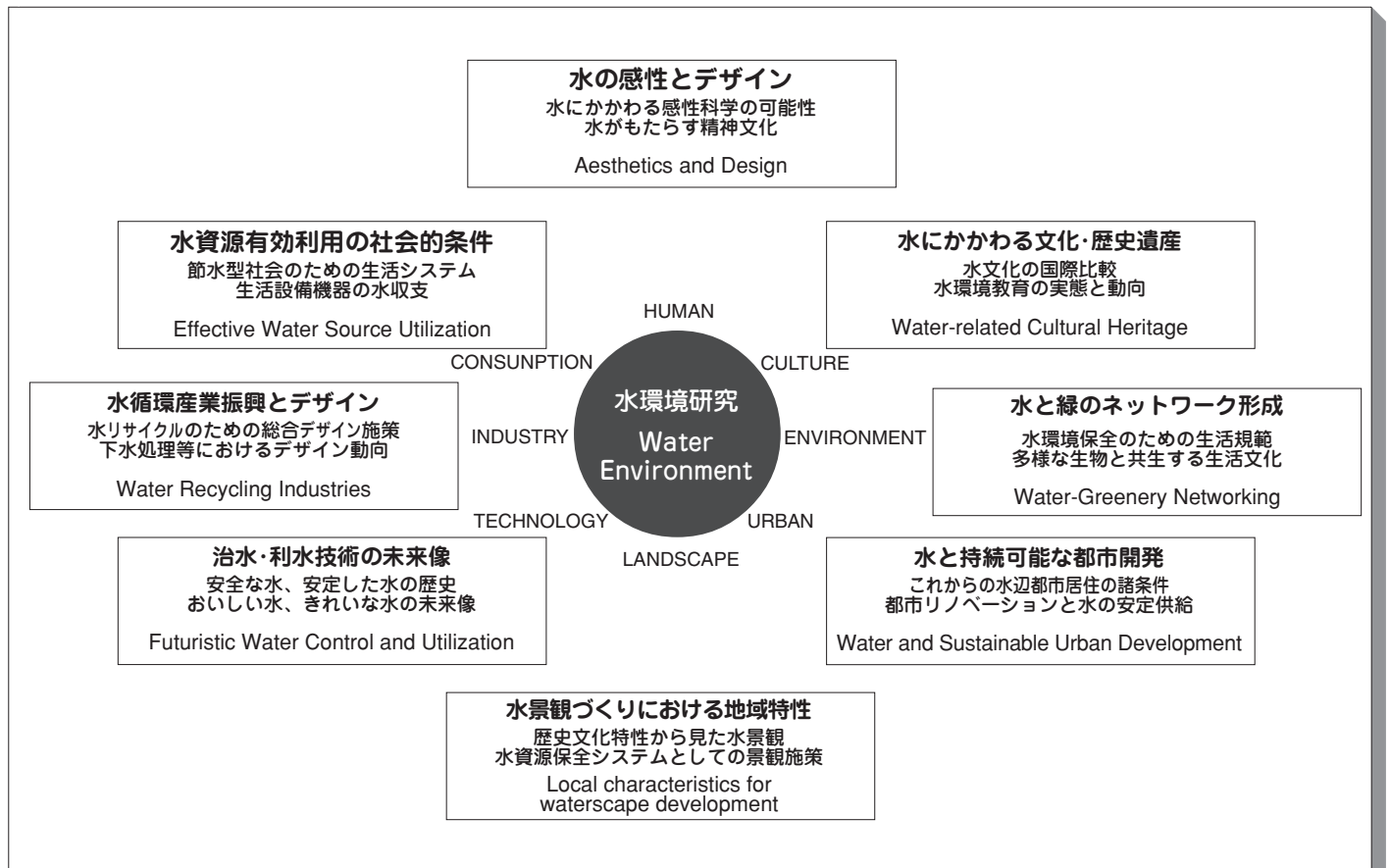
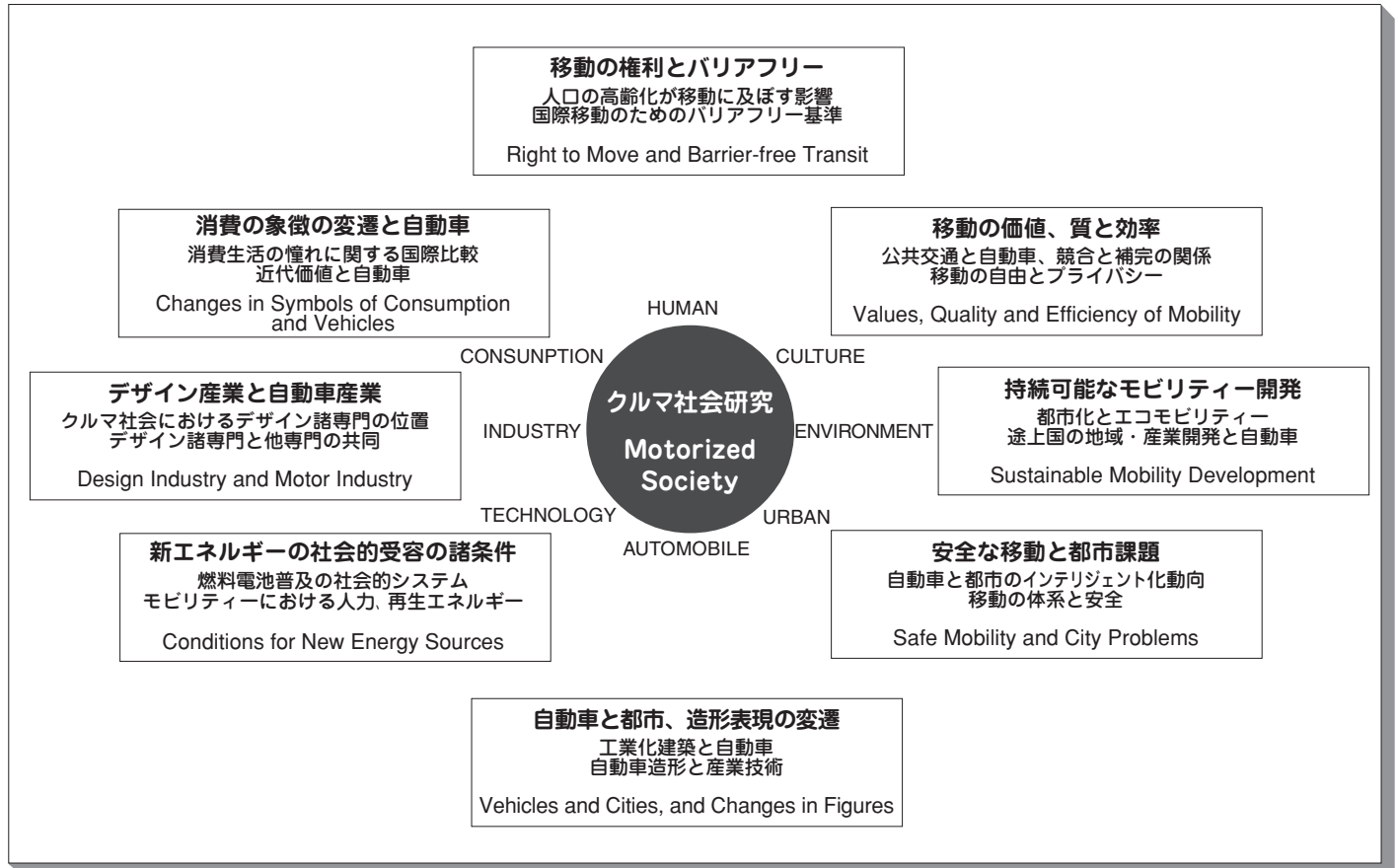
(Life in waterfront cities / Urban renovation and stable water supply) Local characteristics for waterscape development (Historico-cultural perspective / Waterscape for water source conservation) Futuristic Water Control and Utilization (Water quality) Water recycling industries (sewage processing) Effective Water Source Utilization (Water-saving social systems / Water use of household appliances) Aesthetics and Design (Water and spirituality)

Masato Isaka / Managing Director, Japan Institute of Design

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### プロジェクトテーママップ



# ホロデザイン

水野誠一 / 東京クリエイティブ理事長



3年ほど前に、これからの時代は単なるプロダクトをデザインするだけではなく、それが社会に及ぼす影響までを考え、人とモノとの関わり合いのデザインが重要だということで「ソーシャルデザイン」というテーマを提案しました。その背後には「マーケティング」という意識が必ずあると思いますが、「ソーシャルデザイン、ソーシャルマーケティング」だけでは語りきれない部分を、今後はどう捉えるべきかが最大の問題提起だと思います。

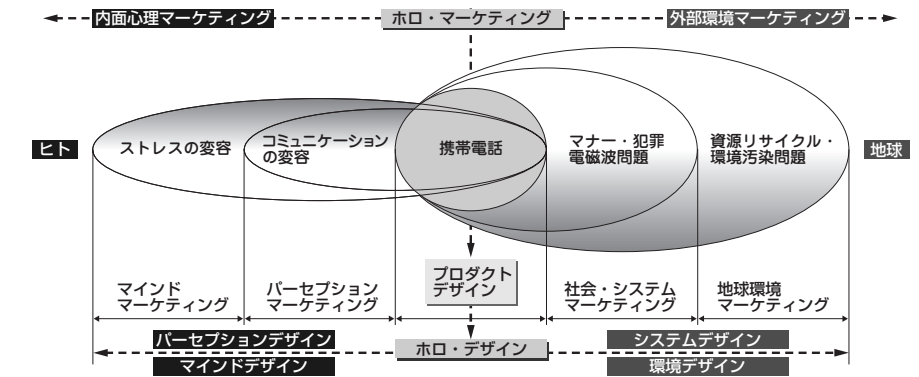
政治家としての活動の中で、特に環境問題に取り組んできました。これまでの「環境問題」は「経済」と対峙させ「エコノミー」か「エコロジー」かの二者選択で捉えてきました。しかし、本当にそうなのでしょうか。

20世紀、日本は情報通信の世界でハードウェアでは様々なものを作ったが、ソフトやコンテンツという面ではデファクトスタンダードを取れなかった。ようやく、携帯電話でiモードのようなパケット通信化した技術が進んでいるといわれていますが、これも果たして本当にデファクトスタンダードを取れるかという問題があります。しかし重要なことは、21世紀は「環境主義」ではなく「環境経済

## Holonic Design

Three years ago, I advocated the concept of "Social Design" to emphasize the need to consider the influence of products on a society when designing a product. Behind this is a marketing concept. The next greatest question is how other elements not covered by these two elements can be incorporated.

As a politician, I have been committed to environmental issues. Thus far, we have tended to consider the "economy versus ecology." But in the future, ecological economism should be the norm of Japan, instead of environmentalism. We must mobilize our wisdom to protect the environment, and use and develop technolo-



主義」という考え方、日本は環境分野、環境技術、環境問題の解決技術分野でこそ知恵を使いデファクトスタンダードを取ること考えなければいけない。そこに「エコノミー」と「エコロジー」という2つの要素が見事に両立するのです。日本は少ない資源をセーブして生活をする知恵を一番持っている国はずなのです。

21世紀は情報産業が重要なリーディング産業になることは間違いのないのですが、それを技術として捉えるだけではなく、情報化ではカバーしきれない人間のコミュニケーションの本質をしっかりカバーする情緒化の産業が重要です。特に高齢者問題は情報化だけでは絶対解決しない。これは同時に「エコノミー」と「エコロジー」というバランスに似ています。

20世紀の最後に私たちがソーシャルデザイン、ソーシャルマーケティングを主張したことは意味があると思います。21世紀にはまさにエコロジーやバリアフリーの様な情緒的なものと、情動的、あるいは経済的な行為とのバランスをどう取っていくか。そこに我々はテーマを一步進めることで日本デザイン機構の21世紀のテーマが出てくるのではないかと思います。

最近、私が企画監修した、「20-21世紀 DESIGN INDEX」(INAX出版)の巻頭で



gies to solve environmental problems. Then, the economy and ecology can be compatible. No doubt, the IT industry will be the leading industry in the 21st century, and there is a need for an industry to fill the communication gap for people leftun covered by IT innovation. In particular, the problems of elderly people can never be solved using only information technology.

I propose the concept of Holonic Design as a theme next to Social Design. It is a comprehensive design method embracing Social Design and economic theories. Balancing ecological and welfare needs with economic activities would present a new theme for JD. For exam-

「21世紀へデザインパラダイムの転換」として、ソーシャルデザインの次に来る21世紀のテーマは「ホロデザイン」という言葉ではないかと思書きました。ソーシャルデザインというものと、商品をより効率的かつ機能的に作るいう、まさに経済原理から来るプロダクトデザインとをどうバランスを取り、その矛盾を矛盾ではなく両立させていくか。これを総合的にデザインすることを「ホロデザイン」と定義しています。そのなかに図(上図)がありますが、例えば携帯電話というものの意味が単なるプロダクトデザインを越えてコミュニケーションとして便利で、なくてはならない社会的な機能としてある。と同時に、社会に対する電磁波・犯罪の問題などの影響を及ぼす。また人間の精神的なものに対しても大きな変化を促す。ひとつの携帯電話を考えるだけでもマイクロからマクロまで非常に広くホロニックな視点でデザインを論じていかなければならない。20世紀的に捉えていたプロダクトデザイン、あるいはシステムとして捉えたシステムデザインから更に大きな世界でデザインを捉えなければいけないのは明らかです。ソーシャルデザインの第2段階として私の一つの問題提起としては、まさに「ホロニック」な視点でデザインというものを考える。おそらくクルマ社会も水環境もこの「ホロニック」という枠組みの中で考えることで見えてくるものが大きいのではないのでしょうか。

ple, a mobile telephone system is an indispensable communication tool today. On the other hand, it causes new problems such as an electromagnetic wave and electronic crimes. It also affects people's mentality. Thus, designers should maintain microscopic and macroscopic perspectives in designing a mobile telephone rather than just designing its outward appearance. Product design and system design which were developed in the 20th century should be further expanded in the new century. Perhaps, the motorized society and the water environment can be considered within the paradigm of Holonic Design.

Seiichi Mizuno / Chairman of Tokyo Creative Committee

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### トータルデザイン

田村 明 / 地域政策プランナー



トータルデザインということですが水野さんの言われた環境で思い出すのは、浅田孝さんが1961年に言い出した環境開発です。浅田さんはこれから地域開発をやる、色々なものを作っていかなければならない、だけどその時に環境的発想が要ると言っていました。環境自身がデザインの対象になると同時に土木建築的なものをただ作ればいいのではなく、それ自体が環境のデザインでなければいけない。衝撃を受けました。10年後環境庁が発足して環境という言葉が定着した。そのかわり、浅田さんが言った言葉より矮小化されている。縦割りに限定された水とか緑とかだけが環境になってしまった。浅田さんが言おうとしたのはまさにトータルデザインなのです。橋、ダム、建築、標識、河川、丘陵など全部環境である。そういうものも含めて環境として考えなくては行けない。40年前ですが大変卓見だったと思います。

トータルということで先ず考えなければならないのは、ものの関係性です。そもそもデザインというのは一つずつのものから始まっている。グラフィック、工業デザイン、建築などですが、しかし一つのものだけで成り立っていないのが環境であり都市です。

第2の問題に自然がある。デザインは自然の状態に挑戦していくわけですから、一つだけものをボンと密室の中で作るのとは違う。ですから、自然との関わりをトータルに見ることが要ります。

第3の問題は、環境には元々いろんな人間が関わっているということ。関係のない多様な人間、様々な主体がいて、様々な思いを持って行動している。その様々な主体の行動というのは一致するものではなく、矛盾する行動も多い。そういう主体も含めてどうやってトータルに考えられるかが重要である。

トータル性の第4の問題は社会経済的なシステムです。これを考えなければ実際のデザインができない。どういうお金がどういう形で出て、それは公的なお金から出ることなのか、企業から出ることなのか、税金から出ることなのか、当然、出来てからの管理の問題も必要になります。

第5の問題はそれをどういうふうに使っていくかという、生活面からのトータル性です。私は「まちづくり」という言葉をつくりましたが、これからは「まちづかい」であると思っています。

第6番目はもっと大きな文明的な問題。クルマの問題、水の問題を取り上げたというのはまさにこれからの文明的な問題まで含めて考えなければ行けないということだと思います。

トータルのなかには矛盾撞着が入り込むからこそプランニングやデザインが要ると思っています。問題を抱え込まなければ問題は解決しない。うまく行かないかもしれないが、そこを含めて考えな

ければならないということです。クルマや水の問題もそういうところから出たのでしょうか。クルマの問題で言えば、人間が歩くよりクルマの方が便利に決まっている。しかしクルマがあまり便利になれば人間の方が成り立たなくなってくる。これは完全に矛盾の状態にある。

色々な価値観が実際にはせめぎ合っている。それを具体的な場所でどうするかという答えが出ないとダメです。一般論でなく他の場所はともかくとして、その場所でどうするんだという答えを特殊解として出してみるというのがデザインです。そういうものを出してみてもそこだけで優れたデザインでもいいし、場合によってはそれが普遍性を持つこともある。

ジョナサン・バーネットというアーバンデザイナーが、アメリカの都市は経済原理によって大量公共輸送機関を全部追い出してしまった。これを回復しなければアメリカの都市は成り立たない、ロスの地下鉄も無駄なような投資をしているが、ああでもしなければアメリカの都市はどうしようもないということを言っていました。

水の問題ですが、アラブ首長国連邦のドバイからアブダビに行く砂漠の中に約40km道の両側約1kmに渡って緑化しています。しかし雨は降りません。海水を淡水化しパイプで運び、木の1本1本にスプリンクラーをつけコンピュータで制御して給水している。緑=水なんですね。石油の力を一種の社会資本としての緑に集中的に使っている。今そういう環境を勇気をもって作らなければ行けないと考えます。

architecture, and so on. 2. Relation with nature. 3. Variety of people's desire and behavior, often contradictory to each other. 4. Socio-economic systems, including fund sources and the problem of managing the completed development project. 5. How to use the developed area. 6. Vehicles, water and other problems caused by modern civilization. Total design often involves conflicts in desire. Because of this, thorough planning is required in the design process. For example, if motorization progresses, life will be more convenient. But, it will affect human life in many ways. People have different and often opposite values. A solution may have to be devised which

is applicable only to a particular district. An American urban designer Jonathan Barnet commented "Cities in the US had expelled mass transport systems based on economic theories. In order to reactivate cities, we must revive them at any cost."

Regarding water, in The United Arab Emirates, green belts are made in the desert for about 1 km on both sides of the road connecting Dubai and Abu Dhabi. Distilled sea water is supplied through pipes to each tree. Funds obtained by oil are poured into greening. We have to be just as determined in our efforts to create an environment.

Akira Tamura / Regional Policy Planner

#### Total Design

In 1961, Takashi Asada said that we should have an environmental perspective for area development. It had strong impact on me. Ten years later, the Environment Agency was established, and the word "environment" became a popular word, although "environment" was narrowly interpreted as being "water" and "greenery" reflecting the division in the Agency. What Asada meant was "total design" of an area including bridges, dams, buildings, guideposts, transport, etc.

For total design, six points must be taken into account: 1. Interrelation of various genres of design such as graphics, industrial design,

# Motorized Society / Water Environment

## デザインに幸福発想を

犬養智子 / 評論家



去年のDesign for the Worldの会議で出されたデザインは、環境への配慮や難民のためのもので、ソーシャルデザインのモデルとして素晴らしい例でした。でも私たちが日常で出逢うデザインは、まだ企業発想で人間不在のものが多残念です。

私は「市民のためのデザイン」を21世紀のデザインのテーマとして提唱したい。「生活者」は消費者より一歩進んだ言葉。消費者は企業が差し出すものを末端で受け取る一番弱い存在。生活者は男女共生的で、もう少ししっかりした存在。「市民」はさらに主体的に、社会的、政治的に自己主張する存在です。そこでデザインの市民化、そしてデザインの自治と革命を提唱したいのです。

今日はデザインに於けるヒトとモノの関係を問うわけですが、どうも使い手の都合や主張抜きに作られたものが多いと思います。日本のデザイン全体に言えることは楽しさの発想、あるいは幸福の思想が感じられないことです。これはジェンダーの問題でもあり、デザイナーや意志決定の地位にいる人が圧倒的に男性であることにも原因がありそうです。

例えば新幹線の「のぞみ」は、速いし能率的ですが、美しくありません。内装

はグレイで陰鬱、トイレ回りもグレイ。便座とその下の縁は同じグレイのプラスチックで、便座を上げたままにしていると、縁との区別が視認できず、座る危険がある。トイレシートを紙をやめて抗菌紙で拭くスタイルになったが、手で触れるため不潔感がある。この2つの変化は、トイレで座る機会の少ない男性発想の例です。

日本は先進国なのに、まだ圧倒的に男性原理で動いている国。特に意志決定の地位にいる男性に幸福の発想がないのが問題。私は「私生活がない人に幸福はわからない」と思うので、「デザインを市民のため、市民による、市民のデザイン」にするには、女性原理を採り入れたい。男性は頭の固い人が圧倒的に多い。

例えば、i-Macが出るまで日本のラップトップは全部黒だった。あるパソコンメーカーの展示を見に行き、「こんな醜い機械は買いたくない」と断った。メーカーは「でも黒が売れています、若者に人気がある」。買うのをやめたら、じき i-Macが出た。5色あり、画面が楽しい、使いよい。圧倒的な人気を見て、日本企業は慌てて真似たのです。

今日はクルマと水という相反する2つのテーマが出ています。この2つのお団子を刺す串は何か。「管理、規則、役所」。(この反対は「自由、楽しい、個人」)このため日本では市民が使うという側面、ソフトウェアが悪いのだと思う。これを改革するのに市民の力が必要です。

私たちは、クルマや水に対しても市民の立場に立って、今の管理思想や、最近

流行の抗菌グッズなどの清潔思想といった非人間的なものと闘うことが必要です。

水では、公園や川の整備は100%管理の発想で作られています。立入禁止の場所も非常に多い。例えば世界的に市民のものであるプレジャーボートは、日本では市民権がなく、漁港にヨットをつけようとすると「マリーナに行け」と拒否される。港は世界中でどんな舟に対してもオープンなもの。それを日本だけ管理する。また日本人も外国事情を知らないから、官規制を当然と思いがち。しかもマリーナは数が少なく、第三セクターはものすごく高くして利用者がいない。

自然破壊が問題になっているのに、防波堤や堰堤のほとんどが垂直のコンクリート、人も上がれないし、水の生命も育たない。生命を育むには浅瀬が必要です。

日本のデザインの問題は技術的な必要条件是満たしているが、使って楽しくないこと。人間不在、心の喪失、生命感覚の喪失、技術偏重はいまの日本社会の特徴です。市民のためのデザインを進めるためには、悪いデザインを探し出して排除する運動を、日本デザイン機構でやったらと思います。例えば自動販売機。資源を無駄にする機械がこれほどはびこる国は日本だけ。あれを撤去する運動。それからコミュニケーションの市民化も必要。NTTの接続料をもっと安くする運動など、幸福発想でデザインを市民のものにすることが、いま必要ではないかと思えます。

### Happiness in Design - Design for Citizens

I advocate "Design for Citizens" as a theme for the 21st century because products for our daily use are still designed from the manufacturers' perspective. Consumers are passive beings merely receiving what manufacturers provide. Many products are created without considering users' desires or convenience. In general, designs in Japan seem to show playfulness or a feeling of happiness. It may be part of a gender issue. An overwhelming majority of designers and people involved in decision-making are men. Women's participation in design must be encouraged in order to promote "Design for citizens, by citizens and of citizens." Mentend to be obstinate.

For example, lap-top computers were almost always black or dark gray until i-Mac was launched. In a PC showroom, I told a salesclerk that I did not want to buy such ugly computers. But he said that young black ones were selling well as young people like them. Then i-Mac was launched in five colors. Its screen images are pleasant, and the machine is user-friendly. It gained popularity immediately, and Japanese manufacturers began to imitate it. What is lacking in designing water environments is a viewpoint that they are used by citizens. The construction and improvement of parks with water and rivers are totally planned from the management point of view. There are

many off-limit areas. Breakwaters are mostly made of vertical concrete walls. No one can climb, no life can grow there. Designs in Japan may satisfy technical requirements, but the greatest problem is that users cannot enjoy using them. Lack of humanity, sincerity, sense of life, and overemphasized importance of technology are characteristics of contemporary Japan. In order to promote "Design for Citizens," I suggest that JD begin a campaign to get rid of bad designs, such as vending machines that are wasting resources. Citizens, on our part, should speak out in order to realize our desires in concrete designs.

Tomoko Inukai / Critic

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### デザインが今やるべきこと

石山修武 / 建築家



昨年のDesign for the Worldの会議で、エイズ患者のための使い捨ての注射器というプロジェクトが出て、正直言って私はこれはあまりにもネガティブすぎると思いました。私も避難民のこととかやっていますが、ちょっと遠いなと思っていたんです。ところが、これはご報告も兼ねますが、今、日本デザイン機構のライト・インフラストラクチャー開発プロジェクトということで、コンテナで世界中どこにでも運べる病院というのを進めているんですけど、今年の4月にAMDAの菅波さんに広島でお会いしたら、一つコンテナを発注してくれることになりました。そこで彼は非常に単刀直入な人でその見返りに、私が今カンボジアのプノンペンに建てている「ひろしまハウス」の1階を、エイズ患者が死んでいく病院にしてくれないか、というんですね。それなら「ポータブルストラクチャー」というのを試してみようと。今カンボジアではエイズ患者が急増しておりまして、もう爆発的に増えているんです。自分からは遠い話で現代のデザインがこんなにネガティブになっているのかと正直思っていたんですが、それが非常にリアルだということをそんなことから最近痛感しました。

#### What designers should do now

I am promoting a mobile hospital project that can be transported in a container under the Light Infrastructure Development Project. Mr. Suganami of AMDA ordered one container in April. He asked me to offer the first floor of the Hiroshima House that I am building in Phnom Penh in Cambodia as a hospice for AIDS patients. The number of AIDS patients is rapidly increasing there. In the DW symposium last year, the Single Use Safety Syringe project was introduced, and I thought it a negative design activity. But now I realize that the project is very realistic. I now have 4 containers. I used them as mobile

ライト・インフラストラクチャー、持ち運びできる都市設備の研究をやっているうちにひとつコンテナを調べてみようと思いました。

実は、私は実験的にコンテナを4台ぐらい持っているんですが、中古のコンテナは性能が良くてひどく安いんですね。それで「ひろしまハウス」のお金を集めるために展覧会なんかやらなきゃいけませんので、今、幾つかの都市をコンテナの美術館で巡回してお金を集めたり、お布施を集めて歩いたりしています。

今、コンテナがどこにあるのかといいますと佐賀県のたんぼの中に置いてあるんです。佐賀県にはそれは見事なクリーク（お堀）があって、重い建築はもういらないからコンテナを並べて研究施設を作り、水とクルマに関してリサーチを始めました。

水の問題を具体的にコンテナの研究所で調べていますと、水を利用するってことは大変高価なものにつく。水をうまく利用しながらあるいはお堀をうまく使いながら生活して行くことも非常に高価につく。高価につくっていうことはビジネスにつながりますから、具体的な問題に接しながら非常に新しい大きい産業になる可能性があるな、というようなことを一つ実感しました。

今年の日本デザイン機構のテーマの一つに出ていました佐賀県の子供のワークショップでは、例えば、犬養さんのお話にもありましたように、今はやはり行政の力、国の力というのは基本的に衰えてきている。経済的にも衰えている。それ

art museums to visit many places to raise funds for the Hiroshima House. Now they are placed in the middle of a paddy field in Saga prefecture in Kyushu, and I am using them as research offices on water and vehicles.

There are well-developed creeks in Saga. To live using water, or creeks, costs a lot. In other words, a new business, or industry could be developed from designing a life using water. It is very expensive to live using the old rivers and artificial canals, but it is very important. However, the power of the government, either national or local, is weakening financially. As the economy is low, the business community is also weakened. It is only a civic community

から企業社会の力も基本的にはおそらく低落しているであろう。それからもうひとつなかなかできないでいるのは、市民社会というものを直接にクライアントにする手法を我々は持っていない。経済システムとして「まちづくり」を市民社会の基盤に載ることはできないのかということ具体的を考えてみたい。というのは、古い川の川筋、あるいは人工のチャンネルだった水を使って豊かな生活を営むということは非常に高価なものにつく。でもそれは大事なことだということを考えていくには、もう大人だけに言ってもなかなか理解ができない。子供に教えなきゃいけない。それには市民のファンデーションをつくらないといけない。行政はそんな事に大きなお金は出せませんよね。やはり今、一番実はお金を持っているのは市民社会だと思います。だけどこの人達はお金を出さない。それは深い意味で教育が悪いからだと思うんです。そんなことも含めて、来年からと思っていたんですが、悠長なことはいってられないから、今年の夏に佐賀の田園地帯にカプセルを置き、そこで子供たちに水について教えるというワークショップを考えたい。

which has a sufficient fund. But we have not acquired the skill to work with the civic community as our direct client. The civic community is reluctant to provide money to realize an area development project incorporating water environments. This is because citizenship education has not been provided. At the Children's Workshop to be held in Saga this summer, I would like to place my containers in a field of Saga and have children study about water and life. Adults will not understand the significance of paying for life with water. So I expect children to grow to be enlightened citizens.

Osamu Ishiyama / Architect



# Motorized Society / Water Environment

## 消費社会の行方

佐野 寛 / クリエイティブディレクター



今朝のNHKニュースが北京のモーターショーを報じていました。日米欧の外車に混じって中国製のRV車も並んでいました。日本のモーターショー同様にハイレグのキャンペーンガールが客を楽しませていました。中国では生産が追いつかないほどの車ブームが起きているそうです。

で、このニュースを見てどう思うか、ということが重要なテーマになっていると思います。例えば経済人なら、中国13億人の巨大市場がやっと動き出した。さあビジネスチャンスがきた、と思うかもしれない。普通の人、中国はまだ遅れている。車もまだダサイ、などと思うかもしれない。環境学者は、そのニュースを、中国13億人が大量生産大量消費文明に移行するというメッセージだと受け止めて、物凄い恐怖を感じるでしょう。私もそうなのです。でも、われわれが身を浸してきた、車社会が象徴する現代消費文明を、中国人達がこれから享受しようとするのを、止めるとは言えません。だからこそその「恐怖」なのです。

地球温暖化や廃棄物の環境汚染問題は現代消費文明の持続の不可能性を示しています。環境学者達は、経済学者達の市場開放論議を危惧しています。エコノミーがエコロジーを破壊することを止める

よう願っています。エコロジーとエコノミーを調和させようというエコビジネスが注目されていますし、環境問題に真剣に取り組む企業も増えてきてはいますが、エコロジーとエコノミーを両立させることは実際、容易ではないと思います。そのためとくに経済学者には、経済を考える時には必ず環境のことも考えるようにしてもらい必要がある。

そして問題はデザインです。中国の人達が憧れている消費文明を創り出すことにデザインは大活躍してきたのです。とくにこの半世紀、デザインのあらゆるジャンルが大量生産／大量流通／大量消費／大量廃棄文明の発展に貢献してきました。そのために力を振るうデザイナーやクリエイターが高く評価されてきたのです。そのことをわれわれは自覚しなす必要がまずあると思うのです。とくにコミュニケーションデザインは、人間を「欲しい欲しいの消費者」に改造してしまった責任が大きい。われわれは、まずそのことを反省し、自覚して、自分達でできる努力を始めるべきだと思うのです。

とはいっても、みんな食べていく必要がありますから、簡単に理想的な方向に

行けるはずはありません。とりあえずは、エコビジネスや環境問題に真剣に取り組む企業のために働くことだと思います。それから個人単位でも、たとえばマスコミに登場する機会のある人達に、持続可能な発展への方向転換を啓蒙していただきたい。啓蒙という行為は大変嫌われてきましたけれども、今ほど啓蒙が必要な時代はないのではないかと思うのです。因に私もこの「現代広告の読み方」という文春新書で一生懸命啓蒙しています。そういう、自分にできることをみんなが、それぞれの位置で始める、ということが必要だと思うのです。これまでずっと皆さんのお考えを聞いてきましたが、もう、方向は全部はつきりしていますが、問題はそれをどう実現していくのかということだけです。そのことを本気になって考えていくことが、この日本デザイン機構の役割ではないか、そしてそのことを社会に実践させていく、そのための行動をすることが必要だと思うのです。



### The Future of a Consumption Society

A rigorous automobile boom is occurring in China. China-made RVs were on display in a recent motor show there. Japanese business people may have felt that they can find business opportunities in that huge market with a population of 1.3 billion. People at large may be interested in the designs of Chinese cars. I feel a kind of threat gathering a message from this fact that the large market would enter mass production, mass distribution, mass consumption and mass disposal. We have no right to tell Chinese people not to have material desires. Why are they so enchanted by cars? Isn't it because the media has disseminated informa-

tion in such a way as to have consumers be longing for automobiles and to drive them to spend their money to satisfy their desires. Who creates such information? Designers. Designers of all genres are contributing to the development of the system of mass production, distribution, consumption and disposal. Designers conducting their work efficiently have been evaluated as being competent for the last 50 years. We should realize this fact.

In order to sustain development while balancing ecology and economy, both environmentalists and economists should advocate that both aspects should be taken into account. Designers must examine our philosophies, and

present new ideas to consumers to educate them. Education is most needed today. It should not be forced unilaterally. We must discuss issues together. In particular, designers involved in communication design must start with what we can do ourselves.

As the first step, we will pour our energy into ecology-conscious companies. Those who appear on TV and other media should become agents for educating the public consciously. The goal that we aim at is quite clear. The problem is how to realize it. JD must play a due role to find out ways and take action to do so.

Hiroshi Sano / Creative Director

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### フィッティングデザイン

鴨志田厚子 / インダストリアルデザイナー



「フィッティングデザイン」という言葉自体がほとんど社会に知られていません。先日、当機構の理事会でもなんだか仮縫いの仕事みたいですねっていうご意見がでまして、まさにそういう位置づけが現在だと思います。

ユニバーサルデザインとかバリアフリーを突き詰めるためのフィッティングというご紹介があったんですが、ユニバーサルデザインという言葉が、あたかも新しいファッションデザインみたいな取り上げられ方をされて広まっている面がずいぶんあって、これは問題だなと思っています。ユニバーサルデザインは耳あたりが良いので広まっているようなんですが、ユニバーサルデザインを掲げてそれが全てであるということはとてもあり得ないことなんです。ユニバーサルデザイン、またはデザイン・フォー・オール全ての人のためのデザイン。そのためには、ユニバーサルデザインの次にフィッティングデザインがあるというよりも、人間とモノとの関係、あるいは環境との関係、大きな意味でインターフェースを良く研究しフィッティングを熟知した上で、はじめてユニバーサルデザインという位置が分かるはずなんです。

ユニバーサルデザインというのはなん

となく中間的で、みんなに優しくというようなことで納まってしまっています。私はインダストリアルデザイナーですが、インダストリアルデザインの目から見るととても当然のことをユニバーサルデザインの概念として、いまあらためて紹介されていると思うんです。私はインダストリアルデザイン、イコール、ユニバーサルデザインと理解してきたんですが、バブル期にだんだん他へ曲がってしまいました。

人間とモノとの関係、環境との関係などをとことん突き詰める必要があります。今までの人間工学基準というのは残念ながらほとんどが輸入だったと思うんです。人間の寸法自体が外人であったり、家具にしても輸入品から手直しをしていたりということで、使う人の基本がもう一つ抜けていた様に思うんです。さらに、寸法だけではなく、持久力、人間の見えない部分の計測、例えばひねる力や、それがどれぐらいの時間持っていられるかなど、今まではそういう見えない部分の計測がされていなかった。特にこれからは高齢化社会と言っているわけですから、今までの生活者、ユーザーが平均値でいうと代わってしまっています。おそらく今までの人間工学は30代40代の人間のパワーが中心だったように思うんですが、これからはもう10年か15年上の年齢、そのへんが平均値。平均値に押し込めることはないんですが、様々なことが変化しているわけです。人間との関係を突き詰めておいて、少し緩めてユニバーサルデザインへ、あるいはもっと感性豊かな

個性化というふうに広がっていくべきです。これからそういう実験を重ねながら進めていきたいと思っています。

フィッティングデザインというのはデッサンです。ピカソの名画にしても初期の頃はたいへん見事なデッサン力で、しっかりしたアカデミックな絵を描いています。そのデッサンをフィッティングデザインというふうに位置づけて考えていきたいと思っています。

そしてせっかく新しく始めるんだったら、人間とモノ、人間と環境、ハードばかりではなく、ソフトのコミュニケーションなども入るわけですが、どんなふうに人間にフィットしたらそれこそ幸せなのかという、大方の原点を探っておきたいと思っています。



#### Fitting design

"Fitting Design," a design genre that is not widely known among the public, and its position is not yet established even in the design community.

On the other hand, "universal design" may sound good, and it is often talked about as if it is a trendy topic. It is not that "fitting design" functions to get to the bottom of "universal design" or "design for all." We must first define what is "fitting design" after studying about relations between humans and objects, between human and the environment, and ease of handling and further interfacing. It is only after this process that the meaning of universal design

can be clearly understood. Because of its comfortable sound, universal design tends to be interpreted as designs friendly to all.

As an industrial designer, I have thought that industrial design itself is universal design. But now I am afraid that the term is increasingly interpreted in a different way.

Ergonomic consideration so far has been based on the size of western people. In designing furniture pieces, for example, designers have modified the dimensions of imported products. They paid attention to only size, but not to invisible measurements such as users' strength to twist, to hold, to keep holding an object. Since the population is aging, the average age of

consumers will be 40s or even 50s in place of 20s and 30s. Designers must take the physical strength of this or older generations into account. We should examine the relation of a product with users, and extend our mind to a universal design and further to individualized designs. I will proceed with my work while experimenting on these points.

Fitting design for a designer may be likened to drawing for a painter. At least, I would consider it as such.

I will also seek what modes of communication will satisfy people.

Atsuko Kamoshida / Industrial Designer

欧米では広告収入で、バス停の設置運用が行われている。  
ドイツ、Wall社 デザインGK設計  
In Europe, bus stops are built and managed with the advertising revenues.  
(Wall Co. Ltd. Germany, Designed by GK)



## 公共デザインからの見方

西澤 健 / 工業・環境デザイナー



公共デザインという一般的な都市デザインのことだと思われがちです。しかし、自動車や印刷物、また行政の発信するホームページなども公共デザインの領域だと思えます。

今考えるとデザイナーが高度経済成長期にいろいろなことが試みられましたが、その中であまり感心出来なかったものがあります。それが公共のデザインだと思えます。

20階ぐらいの高さから街を見ると、その雑然とした様が東京なのかという気がします。例えば建築そのものが公共の財産であるということを建築家自身が自覚を持って頂きたいし、デザイナーもそのことを言うべきだろうと思えます。

グラフィックデザイナーも公共の情報関係に対して問題提起してもらいたいし、我々もしっかり声を出すべきです。

行政が、民間や企業にデザインの必要性を言うけれども、本庁或いは自治体の上層部の人たちが本当にデザインを認識しているかは疑問です。

例えば、「情報化時代」と言われる中で、ポスターやカタログ、そしてホームページなどはきちんとデザインされているかが、気になります。現実に役所に行くと雑多なデザインで、それは一度私が

20階から見た都市の風景、雑多な建築がひしめいているのと同じ状況になっているのではないかと思います。

水について言えば25年前にサウジアラビアに一ヶ月ほど滞在したとき、ガソリン代を尋ねたところ、1リットルがたったの5円でした。水のほうが高価なのです。町の中の屋敷に植えた一本の木を維持するには年間100万円掛かると言うのです。その時話題にしたことが、砂漠を現代技術で生き返らすことは出来ないか、ということでした。そこで、万国博覧会をサウジアラビアの砂漠で行えば、いろいろな技術が披露されるだろうし、役に立つのではないかという思いでした。

日本では恵まれすぎていることが水問題を難しくしています。例えばドイツは乾燥しているので、ビオトープは人工的に仕掛けないと成立しないのですが、水の豊かな日本では、湿度も高く、放っておいてもすぐにビオトープになってしまいます。それよりも、緑をいかにきれいに維持するかが重要とされています。そんな環境の中で日本人は改めて水の大切さ、水のあり方を考えていかななくてはならないと思っています。

クルマの問題のひとつは、自動車と歩行者が直接対峙しているところにあると思います。自動車というのは時速40キロから60キロを出しています。比べて歩行者は時速4キロぐらいです。その中間に位置する自転車や電動式車椅子等の為の空間が今はありません。法的にも時速6キロ以下は道路を走ることが出来ません。つまり6キロから20キロぐらいの乗

り物が走る場所が考えられておらず、その為の第三の道というものが作れないかと、これは具体的に我々のプロジェクトで考えている最中です。

最後にPFI「プライベート・ファイナンス・イニシアチブ」という問題があります。公共に対して民間がどこまで貢献出来るかという話です。

例えば地下鉄空間で一般的には5㎡しか売店が出せない決まりの中で実際には100㎡の売店を出しました。民間が公的な空間を借りて出せるような仕組みを持ったからです。これも強いて言えばPFI的なことだと思えます。あるいは道路に看板を立ててレンタル化すること。民間が公共の場をレンタル化していくことが、これから多く出てくると思います。標識でもレンタルさせてメンテナンスから管理まで全部そこでさせる、という考え方は当然出てきます。また公共空間を利用して、飲食店の前にオープンスペースを持たせるというのもあり得ます。

環境と経済の話が出ましたが、経済効果も含めてPFIの問題というのはこれから大きくなっていくと思います。自動車自身もレンタル化されてくる。最近都バスに広告が許可されましたが、これもPFIの一種です。これからはそういうことも考えていかななくてはならないと思っています。

### Public Perspective

I would like to include public information in considering "public design." Architects should consider their building designs to be public designs and persuade their clients as such. Graphic designers should insist on the design quality of public information materials. Although government officers are talking about the IT revolution, and the need for higher design quality, the posters and catalogues currently distributed are very poorly designed, and some are even disgusting.

Regarding water, in Saudi Arabia, water is more expensive than gas. It costs a million yen a year to grow a tree. In Germany,

humidity is so low that it requires a special device to create a biotope, while in Japan, it is very easy to create a biotope. We are gifted with water, which makes us less concerned about it. We need to consider the precious value of water, and how to use it wisely.

At present, roads are made only for vehicles and pedestrians, or transit at 40 km - 60 km/h and 4 km/h. There is no space for bicycles and 4-wheel motor-wheel chairs. There is no legal provision for devices running at 6 km/h, 20 km/h - 40 km/h. So, we are considering the feasibility of constructing a third type of road in our project.

As part of public design, an initiative called "Private Finance Initiative (PFI)" is being imple-

mented. This can be an important test to see what contribution the private sector can make to the general public. For instance, in the basement of a public building, a shop usually can occupy only a 5 sq.m. space. But a space as wide as 100 sq.m. can be rented through PFI to operate a shop. If this trend progresses, the private sector may soon rent out signboards and signposts to the public sector while taking responsibility for the design, production and maintenance and management of these. Recent movement to paint advertising graphics on the whole body of buses used for public transportation is also a PFI example.

Takeshi Nishizawa / Industrial and Urban Designer

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### 途上国支援

松本 洋／(財)国際文化会館専務理事



私のお話はどちらかというと鴨志田さんが言われたのに関連しています。そして、今佐野寛さんがお話しいただいたクルマのデザイン、あるいはクルマ社会における受け入れという中で、先進国からの技術移転というものが一つの基本的な問題になっていると思います。そこにおけるクルマのデザインの普遍性、あるいは普遍性のなかにおけるフィッティング、あるいは特異性、地域性ということについてお話ししたいと思います。

もう相当前になりますが、マハティール首相が「プロトンサガ」という国民車を作ったとき、実は自分が国民のためにデザインするのだということで日本にやってきました。首相は医学部出身のドクターですが、自分自身でマレーシアの国民車をデザインするという意気込みでした。私が担当者に「素人がデザインしたらめっちゃめっちゃになるじゃないか」と質

問すると、「ある程度の範囲内でどれを選んででも整合性がとれるものになるようにマハティール首相に選択をまかせた」と答えました。首相のデザインはハンドルのわっぱとドアの取っ手とテールランプでした。しかしマハティール首相がアドバイザーとして連れてきた人間はイギリス人でした。マハティール首相はルック・イーストということで日本に学べ、今までのルック・ウエスト思想を破って何かやりたいところに何か日本的なものを求めながら、やはりアングロサクソンの価値観というものを求めていました。西洋的普遍性ともいうのでしょうか。

クルマに対する彼らの価値観とは、例えば移動の価値といっても目的があって移動するのではなしに、移動そのものが価値であるということ。バングラディッシュなどではバスの上に乗るとか、移動することそのものが生き甲斐であるというように、スピードを求めればそのスピードそのものが価値で、日本の場合には速く安全であるということがありますが、速くということは安全をある程度犠牲にしないといけないので、むしろ途上国の人たちは安全ということよりも速いということに快適を持つ。それに比べてマハティール首相のデザインはどちらかというと普遍的で我々先進国の中で受け入れられたデザインというものを求めました。

しかしそれに対して、同じ頃フィリピンの大衆車「ジブニー」という、ジープを改造してごてごてと飾り付けしたようなものに対して、日本の

デザイナーたちは安くて堅牢でシンプルなものをとすることで「アジアンカー」というものを提案したことがございました。しかし、これは彼らにはあまり受けませんでした。価値観の押しつけだからです。これは彼らの持っている先進国に対するひとつのコンプレックス、いわゆるローカルな生活に対する人間性のフィッティングということよりも、先進国をデザイン的にも追いかけるということ。その生活そのものが、近代化＝西洋化ということになるんじゃないか。ですからこの表題の中に「途上国支援」ということ、支援という言葉は私は好きではありませんが、しかし、デザインをするのがマハティール首相であろうが日本のデザイナーであろうがその中で彼らが求める普遍性。クルマとしての普遍性と、高温多湿などの地域性や、充分でないメンテナンスなどの特異性を考えたとき、彼らにとってのフィッティング、そしてバリアフリーというものはなんなのか。我々も充分彼らの価値観を理解しながら、協力共同でデザインしていくという姿勢が大事ではないかという感じがしました。

そういう意味でソーシャルデザインやホロデザインということも大事ですが、まだまだそこまで彼らの意識というものはいかない。ただし技術移転の中で彼らが考えるのはただ効率性が高いものだけじゃなくて、日本や先進国のスマートなデザインというものを早く自分たちのプロダクトとして生産したいというひとつの夢、人間の欲望みたいなものがそこにはあるのではないかと思います。



PROTON SAGA

プロトンサガ

#### Development Assistance

Considering development assistance, a transfer of technology from developed to developing countries is one important aspect. Universality in automobile design, regional and national characteristics and design fitting to such conditions should be considered in the context of technology transfer.

A few decades ago, Prime Minister Mahathir of Malaysia visited Japan with the intention of designing a national car, the "PROTON SAGA," himself for his people. He advocated the "Look East Policy" at that time, but he brought a British adviser. While looking for something Japanese, he also looked to the values of

Anglo-Saxons.

The values given to motorcars for people in developing countries in Asia tend to be in the act of driving rather than considering them as a means of transportation. For some people, speed is more important than safety. But Dr. Mahathir sought western universality which is widely accepted among developed countries.

Around that time, we proposed a cheap, simple and durable "Asian Car" to the Philippines as an alternative to their gaily decorated "jeepney," which they refused, because it seemed that we were pushing our values on them. So when we are involved in a cooperation project to develop a motorcar for ad eveloping coun-

try, we need to work in collaboration with local designers and manufacturers, and take the universality of automobiles, local climatic conditions such as a high temperature and humidity, and undeveloped maintenance service systems into account. While doing so, we should understand their values.

I gather that designers and technical engineers in developing countries want to learn how to make products not only of high efficiency but of good design through the process of technical transfer. They are looking forward to a day when the products of their own design will be put on the market.

Hiroshi Matsumoto / Senior Executive Director

# Motorized Society / Water Environment

## ランドスケープデザイン

小林治人 / 設景家



日本の国土は自然の持つ楽園性の様なもの、地球上で自然そのものが最も救いになる様な国ではないかと思えます。一昨年の3月に下河辺先生たちの国土政策審議会が「庭園の島々」という21世紀グラウンドデザインのキーワードを出しました。これは17世紀後半にエンゲルベルト・ケンペルが「ヒストリー・オブ・ジャパン」に美しい庭園の様な日本を紹介しています。日本人の自然崇拝が歴史の底流に育まれてきた結果だと思えます。逆に言うと今でも外国からきた人は東北地方などへ行くと、風景を楽しめないスピードの東北新幹線からでも「あ、きれいだな。ガーデンだ」と表現します。西沢さんも言われましたが、あまりにも恵まれすぎて日本人が気づかないものが沢山あった。

昨年と一昨年に園芸博の関係で中国の雲南省昆明に行ったおりに近くの麗江に行きました。世界遺産に登録された800年ぐらいの歴史がある都市で、昔の南シルクロードの宿場がそのまま残っています。5500m位の玉龍雪山から溶けた水が数本の川に分かれて市街に流れ、その間に家が点在し、泉水などもあります。市街に流れる清流で、朝は食事の器を洗ったり料理をしたりする。夕方には洗濯を

する。一晩の間に色々洗いのものをした水はみな下に流れていってしまう。そのまま生活の中を川が流れている。周りは降雨量の少ない砂漠地帯のような状態の所ですが、典型的な水と共にある街ということを感じました。

別の見方ですが、向井千秋さんからのハイビジョン映像を見て、地球環境を考える時に宇宙からの発想というのがあり、それが20世紀人類が手にした大きな遺産ではないか。学校で教わった「ガーデン」という用語はある囲まれた限定された空間という捉え方ですが、そうじゃなくて「ガードされた大地」という「ガーデン」の概念の広がりを感じたのです。「地球はガーデン」と標榜して仕事をしたいこう、最近の私はそう考えています。

明治維新の時に欧化主義や廃仏毀釈などで色々な日本的なるものが失われましたが、漢学者の小沢圭次郎たちが守った庭園資料の一部が国会図書館に残っています。当時のシカゴの都市計画やゴールドゲートパーク、セントラルパークなどの図面を筆でトレースし研究した人たちがいました。その人達は江戸の文化を伝えようとしたのですが、欧化主義の流れに押されてしまいました。近代公園の始まりである日比谷公園はその典型で、ドイツの田舎の小さな公園をそのまま真似たものです。それをどう評価するかは別として。形、視覚的、空間の構造的な面だけにとらわれてきたのが20世紀のランドスケープデザインだったと思います。

今、ランドスケープデザインは公園・緑地などを沢山作る時代からそれをどう

管理・運営するかという方向にシフトしています。そのなかで大きく2つの動きがでてきた。一つは環境保全に取り組む方向で、そのために子供達に環境学習をさせようという流れです。例えば私の住んでいる調布で日曜日に子供達が泥にまみれて田植えをしていた。水田を耕すとミミズやおけらがでてくる。それをねらう鷺や椋鳥がでてくる。そういう体験が今あまりにもなさすぎる。また、ビオトープを身近な小学校の校庭に設置しようとする所が増えている様です。西沢さんの指摘通り、日本は平均降雨量1500mmですから、ほっとけば路傍など土と水があればどこでもビオトープになる。その様な国土にドイツの翻訳ビオトープ論が今蔓延している。明治の欧化主義で公園の配置設計論をやった頃と全然変わってない。

さらに、日本は急峻な国土ですから道路を作るにも造成し醜い法面が出てしまう。この工法の是非は別として、そのため緑化産業が急成長している。しかしそこへの植物の植え付けが、牧草をただ吹き付けるようなやり方でしかない。もっとエコロジーや美を意識すべきではと感じます。環境保全と景観問題を解決しようとする流れです。もう一つの流れは、都市の再開発に伴う高層ビルの足元、屋上、壁面等の人工的構築物による空間デザインです。この場合多くのデザイナーやアーティストとの協力が不可欠と考えますが設景家としてはその時、もっと真剣に生き物の生息条件である水と緑の技術で空間づくりをしなければと考えます。

### Landscape Design

Japan is among the most gifted countries in nature. Natural beauty is the great source of comfort for people. In the latter 17th century, Engelbert Kaempfer, a German naturalist referred to the garden-like landscape of Japan in his "History of Japan." Even today, foreigners visiting rural Japan admire the natural beauty as being like a garden. I visited Lichiang near Kunming in Yunnan province of China. A post town along the Southern Silk Route that still remains as it was. Several rivers gathering snow water from high mountains run through the town. People use the water for cooking and washing. And the

water flows down over a night. The typical landscape of a town with water is there amid the desert.

In the process of modernization / westernization after the Meiji Restoration, Japan has lost various things once characteristic to Japan. Some tried hard to maintain the culture of the Edo period but were pushed out in the strong wave for westernization. As a result, forms and visual and spatial compositions were emphasized in landscape designs in the 20th century.

The emphasis is now being shifted from constructing more parks and greenery to managing the existing greenery. One direction is environment conservation and landscaping.

This includes education for children to have them learn the cycle of nature through planting plants and watching wild creatures.

Another direction is the spatial design of urban centers, the bases, roofs and walls of buildings. Thanks to the views of the earth from space shuttles, we developed a much broader concept to see the entire earth as a "garden." We, landscape designers must work closely with artists and designers of other genres to create a space of green and water which will provide habitats to living things.

Haruto Kobayashi / Landscape Architect

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### エルダリー社会におけるソーシャルデザイン

田村国昭 / (株) 博報堂開発局局長代理



私は広告会社にいますけれども、最近、全社的なプロジェクトが一つスタートしました。そのプロジェクトのテーマが「エルダリー社会におけるソーシャルデザイン」というテーマです。

団塊の世代が50代60代70代をむかえるということで、この世代が、大蔵省の総括政務次官の大野さんの話によると、日本の資産の75%をもっている、と。この資産が固定化している以上は日本の経済はよくなる、ということもおっしゃってました。まさにこの団塊の世代がこれからの高齢社会を担うわけですが、そういうことがヒントというわけではなかったんですけど、いよいよ広告会社も高齢化社会におけるマーケティングをテーマにするようになりました。

国際的に見ても、シンガポールも中国も急速に高齢化してゆきます。最先進国のデザインを各国の高齢化社会にむけて考えていくことが課題になると思います。

別の角度の話ですが、IT革命を受けて、マスコミのデジタル化が進み、広告業界も急激に変化せざるをえません。例えば、新聞ですが、再販制度が自由化する可能性があります。また新聞もインターネットに載せる時代になった。インターネット

トで新聞を読むということは、今までのような新聞広告が従来と同じ効果を持たなくなる可能性すら意味しています。広告業界が行ってきたマーケティングという面でも、マスマーケティングから、ユーザーとダイレクトに結びつくマンツーマンが求められてきています。

今回のテーマの「クルマ社会」や「水環境」に関して言えば、まず「クルマ社会」に対しては、先に述べた「エルダリー社会におけるソーシャルデザイン」という観点から「バリアフリーなモビリティ」に関心があります。ソーシャルデザインということに関しては、社会課題への対応ということですが、そのデザイン解決は、いかに「新しい心地よさ」というものをつくりだすか、それも経済価値をつけて、が課題になると考えます。ソーシャルデザインは、新しい経済価値を生み出すということがなければ、まさに社会化してゆかない。そのところが重要です。「バリアフリーなモビリティ」に関しても単に不自由さをなくすだけでなく、新しい心地よさを、経済価値をつけてつくりだすことを、具体的にどうするかという段階にあると思います。

「水環境」に関して、トータルな視点はもちろん重要なことは変わりませんが、それを「マス」な視点で大きく括る時代ではなくなっていると思います。今までこうした問題の取りあげ方やアプローチは、「マス」の方法だった。例は違いますが、

イベント、例えば博覧会なども「世界博」「万博」といった「マス」の手法だった。マスの手法で一網打尽に網をかける手法は終わったのではないかと思います。

いま、イベントは「ピンポイント」の方向に移行しています。広域的に行うのではなく、実効性のある地域に限定して行う。東京の阿佐ヶ谷でジャズフェスティバルを行うとか、ガーデンプレイスのファッションショーとか、石山さんがおっしゃられた佐賀のワークショップとか、ピンポイントなものの方が効果もあるし、その後の継続性や波及性がある。愛知万博もそういう点では無理があるかもしれません。

「水環境」研究も、私は我孫子に住んでいます。地元の「手賀沼」をどうするかなど、市民の実感です。こうした地域を特定して、地域との連携のなかで「水環境」問題を議論する。フォーラムやワークショップを開き、それを契機に継続的にデザインの課題を具体的に展開していく。そういうことが要ると考えます。今日、滋賀県の方がいらっしゃっていますが、何か具体的な連携の途があるかもしれません。



ated? Can we create it with added economic value? I am interested in barrier-free mobility as a component of social design in the elderly society. Population aging is a common issue among developed countries but this will soon be a problem in developing countries such as China and Singapore. There fore, design for the elderly will be directed to these countries. We are currently at the stage of how to approach this question. As digitization of the media is progressing, dramatic changes are occurring in the world of advertising. It implies that newspaper advertisements will not have the same level of influence on consumers as before. Instead of mass marketing, one-to-one

communication between a company and an individual consumer is demanded.

A total viewpoint is necessary for "water environment," but programs or events are increasingly aiming at a specific locality. It is more effective, sustainable and expandable.

People are more concerned about the water environment of their neighborhood community. Designers should discuss the question of water environment with community people. Through such forums and workshops, means of improving the community should be sought.

Kuniaki Tamura / Hakuodo Inc.

#### Social Design in an Elderly Society

In the advertising agency I am working for, a new project "Social Design in an Elderly Society" began recently.

According to a vice-minister of the Ministry of Finance, people in their 50s to 70s possess 75 percent of the assets of the Japanese. He also says as long as these assets remain fixed, the economy of the country would not be activated. As the baby boomers are entering their 50s, they will become the major component of the elderly society. Hence, advertisement agencies began studying marketing in the elderly society. In addition to securing free movement for the elderly, how can a new kind of comfort be cre-

# Motorized Society / Water Environment

## 総括

栄久庵憲司



今日のトークセッションは上手い構造になってました。Aセッションの水野さん、田村さん、犬養さん、石山さんの4人の話は非常にたて軸よこ軸がかっちりしていたと思います。

生活者の視点ということでデザインを享受する人々の参加意識。ものの世界で何か問題が出た、では作るのは誰だ、それは専門家だけでなく人々だと。犬養さんが消費者ではなく「市民」だということをおっしゃっていますが、人々の新しい意識の向上が肝要と思います。市民社会というのは長い歴史の変化、沢山の犠牲と、大変な労力を果たした結果があって今日に至っているわけです。近代化の百何十年の結果、最後には我々の世界は我々で作るんだ、いやその必要を持つべきであると、これは大変な啓蒙活動だと思います。

実際問題私も市民の一人だと思っていますが、そのなかでもリーダーシップを執らなきゃいけない、旗を振らなきゃいけないんだとも思っています。しかしそこで、デザイナーとかアーキテクトとして、しっかり旗を振る役目もある、そういう立場のものとして何をすべきかという疑問が湧いてきます。それなくしてはどうしてもリジッドに固まらないような

事柄が今のデザインにはあるのではないのでしょうか。

今デザインには反省もあたえられています。その反省もじわーっとくる反省で、反省の質がどうも今までと違ってきました。戦後ジープをみながら、ハーシーのチョコレートに憧れながら、そのときに思っていた日本国に対するまた世界に対しての反省、思いというものと今違ってきた。これはすごい違いです。大きな意識の変化を伴って反省というもの自身が変化していつている。

質が変化していつているということをつまえてBセッションの佐野寛さんをはじめ鴨志田さん、西沢さん、松本さん、小林さん、田村国昭さんのそれぞれの立場からのお話を聞きました。それぞれの立場ということとはとても大事なことであって、誰もが一人でできることじゃなく、様々な角度から攻めていかなければいけないことだと思うんです。



様々な角度から攻めるということに関しての例え話ですが、地球のあるところから中心に向かって長い針を刺したとすると中心に届く。その中心に届かせたいと思う人が地球上のまわりに大勢いて、その大勢の誰もが地球の真ん中に針を刺したいと思って刺したときに真ん中でかっちりうまく納まる。そうしたときに初めて新しい時代が生まれてくると、私は思うわけです。今日のそれぞれの発言は実に気持ちよくそこだと、そこが地球の真ん中だ、そこが問題点だと、満願の経文が一行の言葉になって出てきたような気がしました。

この日本デザイン機構もアクションプラン、最初からアクションを起こすことが大事だと、トークファーストよりもゴーアクションということを行っています。今日の話では中心を求め、それがもうアクションの時代にきてしまったんだという思いを強くしました。

### Talk Session Summary

Presentations by the four speakers in Session A were well linked.

It was proposed that the consciousness of people who will enjoy the products of design to participate in a design process should be enhanced. People were identified not as being consumers but as being "citizens," who are highly conscious about participating in decision-making processes. Civil society has developed through a long history filled with toil, changes and victims. After more than a century since the onset of modernization, and looking back on what designers have done in the process, particularly after WWII, we now realize

that we should design our future world. We should also encourage people to become enlightened citizens and take part in the process of designing. This presents an awakening movement for us all.

In Session B, six speakers presented their views from their standpoints. Having different viewpoints from different positions is very important, because any problem cannot be solved by a single person approaching from a single angle. Different people with different specialties should collaborate. When many persons put a pin into a ball, these pins meet at the core. Likewise, the core of a problem appeared to be identified through the six pre-

sentations.

We claim that JD is not only a forum but an action-oriented organization. After finding the focus of current problems through discussions today, I realized that we are now at the point that we must take action.

Kenji Ekuan

# Talk Session

## クルマ社会・水環境

### 特別発言

木村光一／湖国21世紀記念事業協会 県民活動課 課長補佐



滋賀では21世紀の始まりにあたり、何らかの催しをやらうとして、一般公募も含め25名の方による委員会で議論したところ、博覧会のような取り組みは止めようという意見が大勢を占めました。しかし、21世紀には滋賀県民として地域の中であつなっていくものを作り出し、それをつなげていくことがやはり必要だ、ということで議論が深まり、実施計画まで進めてきました。

この記念事業は、県民が主体になって起こす「ムーブメント（継続的な運動）」を考えの中心に、2つの事業を柱としています。一つは新たな時代に向け継続的な運動を盛り上げていくこと。もう一つは、その契機となる催しを2001年3月から11月にかけて企画し実施することです。これを推進するのが記念事業協会、NPOも含めた団体などが140以上集まり、昨年の11月に発足しました。今は個々の企業に参加を呼びかけています。協会はいわゆる実行委員会であり2001年の事業が終われば解散する、目的のための実行組織です。

皆さんご存知の琵琶湖は滋賀県の面積の約1/6ですが、集水域は県全域で、降った水のほとんどが流れ込みます。その水が生活を支える、と同時に生活から出

てくる汚れもまた流し込んでいます。1979年にいわゆる琵琶湖条例ができる以前、綺麗だと思っていた琵琶湖に赤潮が発生し県民は、皆ショックを受けました。その原因は自分達だということで、有リン洗剤を排除する石けん運動が広がりました。そういう大きなムーブメントがあったんですが、最近は時間の経過と共にその意識がまた薄れてきました。

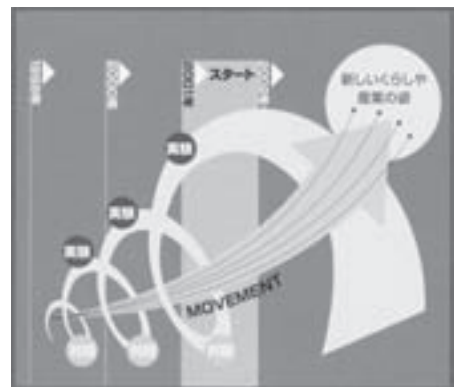
最近のムーブメントから紹介しますと、環境への取り組みとしてグリーン購入をやってきました。滋賀県庁も消費者の一人という視点でリサイクル製品を積極的に使い、それが製造・販売ルートに乗ってきますと市場がつくれます。それが、他の都道府県の行政、企業、学校でも購入されるようになりました。これもひとつのムーブメントとして継続的な活動となると思っています。

“水といのちの対話～「自然と文化」の新たな実験”の基本テーマには、私たちの今日までの生活を振り返り、自然環境と人間社会との関係性を考えて、新たな取り組みにチャレンジしようという気持ちを含めています。“水”は命をつなぐ必要なものとして、物理的だけでなく象徴的、観念的に捉えています。

サブテーマには「水と暮らし」（暮らしを見つめる）「水と技」（産業・技術開発）「水と大地」（農業・林業・水産など生産関係）「水と未来世代」（次世代へつなぐ知恵）という4つがあります。それらを企業も含めた県民が中心になって企画した新たな取り組み、“実験”を始めようということで、チャレンジをしていた

だくことを大切にしようとしています。ですからこの県民活動の中には失敗するという可能性もあります。今までにこういう取り組み方はないと思います。チャレンジをして失敗もある。その中から学び取り、続けていくことで翌年、翌々年に良いことが出てくるはず。そのきっかけの年として2001年を位置づけ、協会が活動や企画を支援します。今年は、こういった活動の募集をやっています。

一方、自ら活動は無理だけど、21世紀につながるような活動、催し、あるいは暮らしの中から改善や商品開発に致るアイデアは、1人1人、必ず持っています。そういったアイデアも募集しています。これには懸賞金をつけていますが、良いものを表彰するだけでなく、応募いただいたものは全部公表していきます。なぜなら、公表したなかから良いものを自分の活動に取り入れて、実践しようというグループがこの記念事業に参加し、あるいはそれ以降の活動に生かしていこう、というふうにつながることを願っています。これが21世紀記念事業の事業デザインです。



ムーブメントの概念図

#### The activity of the Shiga 21st Century Memorial Project Association.

In Shiga prefecture, the 21st Century Memorial Program has been prepared. The program is a long-term movement by local people to maintain and improve our environment. To give impetus for this movement, start-up events will be carried out between March and November in 2001. Shiga 21st Century Memorial Project Association was established in November 1999 and attended by more than 140 NPOs and NGOs. Currently, the Association is approaching companies to join the movement. The main theme of the movement is "Water and Life - Nature and Culture." Japan's largest lake,

Lake Biwa is located in Shiga prefecture. The lake occupies about one sixth of the area of the prefecture, and collects water from all over the prefecture. Waste water also flows in. The lake supports the life of people and at the same time it threatens the life of people. Before the Lake Biwa Ordinance was promulgated in 1979, red water appeared in the lake which shocked the people. The main cause was found to be the waste water from households. A movement began to encourage people not to use detergents containing phosphorus. After only a few decades, people's consciousness about their detergent use has been lowered. The Memorial Program is intended to encourage people to

review their lifestyles and to take steps to keep balance between nature and their life. Subthemes under the main theme are "Water and Life", "Water and Technology" (industries and technical development), "Water and the Earth" (agriculture, forestry and fisheries), and "Water and Future Generations" (wisdom to be conveyed to the young). Citizens and company employees will form working groups to implement experiments under each subtheme. If some experiment fails, we can get lessons from the failure and may bring a better result in the future. We consider the year 2001 as the beginning of our initiative, and the Association is now inviting citizens to submit their ideas for pro-



## Motorized Society / Water Environment

### 質疑

**県民をNGOにするというのはそのプロセスが大事だと思いますが、そのへんはどうですか？**

木村；2001年はそのプロセスの最初のきっかけと考えています。この事業の成果は5年先、10年先あるいは50年先という形で期待したいのです。

今、県内のグループ団体は文化団体も含めて600くらいあると思います。記念事業で新しい取り組みをしてくれるところは、多分150程度というのが私の印象です。応募してこられたところには記念事業協会でサポート、アドバイザーも含めて、組織と組織、活動と活動をコーディネート的なことをして誘導していかないといけないでしょう。グループのなかには、意識を持って関わっている人とか、その中心になって引っ張っている人がいます。そこにグループ以外の人に参加してもらえることで、また違った形の活動というのが次に出てくると思います。ですから2001年にやったことを毎年続けて欲しいということもありますが、2002年以降は知恵で、あるいは取り組みの仲間を増やしたりして、広がりのある形で続くようになればいいですね。

**県では、事前に県民から色々な意見の吸い上げを行ったのですか？**

木村；民間の方で構成された委員会をつくり、そこで滋賀県も新世紀の記念事業をやりたいと提案をしましたが、30分ほどで廃案になりまして、そこから議論が始まったという経緯があります。一般公

募5名を含め各種団体から学術系の方も含めて25名で8回（部会含めて18回）議論をしました。ですから県民の方の考え方をそのまま反映したご意見です。

**きっかけづくりというアイデアはいいと思いましたが、そのきっかけをムーブメントにするには、結果を出すことも必要だと思いますが。**

木村；どれぐらいのアイデアが出て、最終的にどう展開できるのか予想がつかない部分は確かにあります。県や市町村は行政として企画していますし、協会も一般の県民の方が参加できるものを催します。これがきっかけづくりとなる例を挙げますと、第9回の世界湖沼会議が2001年11月に滋賀県で行なわれますが、学術会議だから一般市民は入れないんです。が、国際会議を誘致したことで、市民会議を開催しようとNPOが動きだしました。その時には、いろんな方が来られますから、シンポジウムやおもてなしなどの企画をしています。そういったことを経験して次の年につないでいく。そこで経験が自分達に帰ってくるでしょう。

私たちの仕事は協力グループの紹介や、参加したいがきっかけがない個人をつなげていくコーディネートと、そういう方がより多く出てこれるためのPRだと思っています。

湖国21世紀記念事業協会

ホームページ、<http://www.shiga21.com>

grams which will be triggers for future programs, or ideas for new products. We offer prizes for excellent ideas. We will publicize all ideas submitted, because there may be some people who may be inspired by these ideas and who wish to implement them as their activities.

### Discussion

- Are you trying to organize the prefecture populace into NGOs? Do you consider the process to be important?

KIMURA: The year 2001 is the beginning of our efforts to do so. The result of the program would become apparent five years or ten years later. Currently, there are about 600 organizations in the prefecture including cultural groups, and

about 150 organizations of them will take part in the Memorial Program. The Memorial Association may need to coordinate them. We hope that there will be new developments arising out of the interaction of members of different groups.

- Has the prefecture tried to collect public opinions for this program?

KIMURA: The prefecture office organized a 25-person committee consisting of representatives from the private sector including five selected through an open application. The prefecture proposed the organization of an exposition, which was thrown out in half an hour. The committee met 18 times (sectional meeting includ-



(懇親会会場風景)

ed) after that, and we gather the voices of people are well reflected in their discussions.

I have no idea how many proposals would be submitted, and what kinds of agendas can be structured after all. The 9th International Conference on the Conservation and Management of Lakes to be held in 2001 can be a good trigger program. It is an academic conference closed to the public. But NPOs began to organize a Citizens' Conference and invite the World Conference participants to their events. As the Association, we will publicize the NPOs, NGOs and small groups so that people interested can get access to them. (<http://www.shiga21.com>)

Mitsukazu kimura / Public Activity Division Deputy Director

## 医療援助NGO

### メドゥサン・デュ・モンド ジャパン

メドゥサン・デュ・モンド（世界の医療団）はフランスの医療援助NGOです（本部パリ）。1980年に、「国境なき医師団」の創立メンバーのひとり、ベルナル・クシュネル氏（現国連コソボ暫定行政支援団（UNMIK）特別代表）によって設立されました。メドゥサン・デュ・モンドの日本事務局となるメドゥサン・デュ・モンド ジャパンの荒井康子氏、田口かずみ氏に、ボランティアの居住環境と、被災した子供たちの精神ケアについてお話をうかがいました。

#### 「治療と証言」を活動理念に

メドゥサン・デュ・モンドは、現在欧州を中心に16ヶ国に、代表団体・海外事務局を設置し、3,000名の医師と看護婦がボランティアとして会員登録しています。年間約150のプログラムを約50ヶ国で行い、500～600名の医師が現地に派遣され活動しています。

日本での活動は、1995年に発生した阪神淡路大震災の緊急支援をきっかけに、メドゥサン・デュ・モンド ジャパンを設立。96年からは日本人医師や看護婦も海外でのプログラムに参加しています。

援助の対象は自然災害・武力紛争などの犠牲者や保健衛生面で立ち遅れている人々、ストリートチルドレンなど多岐に渡ります。

「治療と証言」を活動理念に、緊急援助プログラムだけでなく、現地の住民や医療スタッフの教育や社会・保健衛生機構の復旧などの長期援助・復旧プログラムを重視。医療行為を通じた自立支援も、

活動目的の一つです。

#### 精神的なダメージの方が大きい難民

昨年活動を行った東ティモール、ルワンダ、チェチェン共和国などのような紛争の場合、人々は突然「難民」となります。その直後はすぐ死に至る肉体的なダメージは少なく、精神的なダメージの方が大きい。

被災地から逃れ、何も無いところでの生活は非常に厳しい状況です。

水を運搬するために点滴で使うビニール製の袋を使ってみては、という提案と寄付があり、99年4月にコソボで試してみました。薄くたたんで輸送できるなど良い面もありましたが、実用するためにひもを通したり、工夫を試みたものの、水を入れると容量がありすぎて重くなるなど使い勝手が悪かった。肉体疲労をしている難民が、持ち運びをする道具としては適しませんでした。せつかくの寄付でしたが2回目の申し出は断らざるを得ませんでした。

#### ボランティアのための居住環境

また、そのような状況下での医療活動は、ボランティアにとっても過酷です。紛争下で行われたコソボのプログラムでは、避難民キャンプのそばに家を借りて、ボランティアは毎日そこからキャンプへ通いました。そこでは20～30人がご寝状態で寝泊まりをしていて、穴が開けられただけのトイレが、一つしかありませんでした。夏は暑く、飲料水は持参しましたが、風呂に入ることはできない

状態でした。

ボランティアは、皆覚悟をして参加しています。しかし居住環境によっては、肉体的にというよりも先に精神的に参ってしまうことがあります。現地で活動する「ボランティアのための居住環境」に対する、一般の認識は低いと思います。長期の避難生活と援助活動を続けていくには、そのための居住環境が必要です。極限状態であれば、なおさらプライバシーが必要だといえます。簡単な工夫でそれが出来るなら欲しい。



#### 子供たちの精神ケア

戦争を体験した子供たちは不眠症、夜尿症、頭痛といった心的外傷後ストレス障害（PTSD）に苦しんでいます。

体験したあとすぐに症状となって現れる場合もありますが、長い時間を経過してから現れる場合もあります。大人になった時に、今度は彼らが戦争を起こすということがあり、その「暴力の連鎖」を防ぐためにも早期のケアと根気強い長期のケアが必要です。

5年間に2度の戦争を経験したチェチェン共和国では、生まれてからずっと戦争下で育ち、「遊ぶこと」そのものを知らない子供たちもいます。そこで、キャンプの一角に、子供たちが遊んだり絵を描

#### Interview with NGO of medical aid Mèdecins du Monde Japon

Mèdecins du Monde is an NGO of medical aid based in Paris, France. It was established by Bernard Kouchner who was one of the founders of Mèdecins sans Frontiere. He acts as the head of the UN Mission in Kosovo. Mèdecins du Monde Japon is the Japan office of Mèdecins du Monde. "Voice of Design" asked Mèdecins du Monde Japan secretaries about the living conditions for volunteers and displaced children.

Mèdecins du Monde now has representatives and offices in 16 countries with about 3,000

doctors and nurses registered as volunteers. About 150 programs are carried out in 50 countries. Its activity in Japan began with an emergency relief for the victims of the Great Hanshin Awaji Earthquake in 1995 when Mèdecins du Monde Japon was established. The target groups of Mèdecins du Monde are victims of natural disasters and armed conflicts, people living in poor health and hygienic conditions, and street children.

"treat the sick and injured, and give evidence to facts."

The mottoes of Mèdecins du Monde are "treat the sick and injured, and give evidence to

facts." Not only emergency relief, Mèdecins du Monde emphasizes long-term rehabilitation and assistance programs. Supporting people's self-help efforts through medical services is also part of its purposes. International pressure is often heightened when Mèdecins du Monde gives evidence on the facts about places involved in a conflict.

Living conditions of refugee camps are often extremely poor. We once tried to use the vinyl tubes for instillation to transport water, but it proved impractical for refugees to carry.

#### The living conditions for volunteers

Conditions are no better for volunteers. Last

## NGO of medical aid Mèdecins du Monde Japon

いたりして過ごすための、テントを用意しました。

そこでは、その場にあった紙で作った花や描いた絵を飾ったり、テントにペンキで色を塗るなどの「遊び」を通じた心のケアを行っています。空爆や砲撃によって破壊され、一面が灰色の世界で生活する子供たちにとって、色のついたテントは夢のようなものらしいのです。



戦争の経験によって閉じてしまった心を前向きな姿勢へと回復させるために、他者と触れあい「遊ぶこと」は大切な要素です。その意味では、おもちゃを現地へ送ることも有効な手段のひとつです。それには、国の文化や地域に適したものかどうかについての検討がなされなければいけません。以前、その地域では棲息していない動物のぬいぐるみが送られ、それを見た子供がおどろいて泣いてしまったことがありました。

受けてしまった心の傷はなかなか治らないといわれています。平和はつかの間のものだという認識ができてしまうのではないのか。その影響が心配です。第3世界では子供の精神ケアの専門家が少なく、通訳を通じた治療には限界があり、現地の専門家の育成が必要です。

year in Kosovo, we rented a house near a refugee camp, and volunteers commuted from the house to the hospital, or visited many villages. We had 20 to 30 people sleeping on the floor, and there was only one toilet. There were few chances to shower or bathe in the hot summer. The supply of water and electricity stopped frequently. We stored water in a tank when it runs to use for washing and flushing. Living environment affects the physical and mental conditions of volunteers. When the living condition is so poor, volunteers are psychologically broken down before they are exhausted physically. To enable people to live out a long-term refugee life or to continue relief

難民キャンプでは女性と子供が大半を占めています。子供を持った母親の精神的ストレスは大きいと考えられます。

### コミュニケーションの実態

様々な国からボランティアが派遣されています。コミュニケーションは、現地では主にフランス語と英語で行っていません。現地の人とは、協力している現地の医師はたいてい英語が使えるため通訳になってもらいます。

現地のボランティアチームとパリの本部のデスク（プログラムの担当者）間のコミュニケーションでは、携帯電話とe-mailで行います。携帯電話はつながらないことが多く、e-mailもサテライトの状況の影響か着信が遅れタイムラグが生じ、即時的な連絡手段とはならなかったこともありました。

字の読めない人、例えばストリートチルドレンたちには、次回の診療を行う公園を描いたバスの形のカードを使って、活動スケジュールを知らせています。



### ボランティアの日常

1999年8月3日～8月13日の10日間、コソボでの復旧プログラム（紛争後の復旧プ

activities, living quarters should be devised so as to keep privacy. Privacy is more important when working under an extreme situation.

#### Displaced children.

War-stricken children suffer insomnia, bed-wetting, headache and other PTSD symptoms. In some cases, these symptoms may occur right after or long after they come through a war. They may grow to invoke a conflict. In order to break the chain of violence, care must be given to victims immediately after they suffer from trauma.

In Chechen where two wars occurred in five years, there are children who were born under

ログラム）に参加された、小児科医の佐野仁美さんに、ボランティアの居住環境についてお伺いしました。

メドゥサン・デュ・モンドは、元々住居だった一軒家を借りて、20人位で団体生活をしていました。

基本的な1日の生活のサイクルは人それぞれですが、朝、全体のミーティングがあり、その後それぞれの持ち場へ移動し、夕方まで活動します。私の活動場所は主にコソボの病院でしたが、団体としては病院以外に村やキャンプを回る活動を中心としています。移動は全て車で行いました。一人では、決して行動しません。日曜は、一応休日になっています。

住居の水や電気はしばしば止まりました。特に、水は出ない時間の方が長いので、住居の水道を、大きな瓶に貯めてトイレや洗顔など、皆で少しずつ使いました。2週間のうち、身体を洗ったのは1～2回だったと思います。シャワーの数は2個程度で、お湯はほとんど出ませんが、暑い時期なので水でも我慢できました。でも今回、就寝時にソファベッドを使用するなど、居住環境は、恵まれていたと思います。

居住環境が精神に与える影響は、かなりあると思います。私自身は短期間で環境もひどくはなく、そのうえまだ意気込んでいる間でもあったので、多少の不便さは当然という感じでしたが、月や年単位で活動を続けるうちには、ストレスになってくることもあると思います。

（インタビュー：伊坂正人、南條あゆみ）

the wars and who do not know how to play. So we provided one tent at a corner of the camp for children to play with others and to paint pictures.

Through drawing flowers and painting the tents in different colors together with others, children's hearts are cured. Playing is also essential. So toys should be something that meet children's cultural needs. Injury to the heart can hardly be cured, and our service through an interpreter has a limit. We need to train local personnel.

（Interview / Masato Isaka, Ayumi Nanjo）

# From the Secretariat

## 事務局から

### インフォメーション

#### 総会

6月7日(水)国際文化会館別館講堂で、総会が行われた。

栄久庵会長の挨拶(本号P1参照)のあと、事務局長から1999年度の事業報告および収支報告、壽美田興市監事(当日欠席につき書面にて)、田村明監事より監査報告がなされた。

シンポジウム「Design for the World '99東京」の記録として、会員柳生功氏のご協力により作成したビデオ上映に引き続き、2000年度の事業計画および収支計画が討議、承認された。主な内容は以下の通り。

継続プロジェクトに加え、新規プロジェクトとして「クルマ社会/水環境」研究(本号特集参照)が提案された。

さらに佐野寛理事より今後、IT革命が社会に与える影響の重要性が指摘され、コミュニケーションのデザインの検討が提案された。同様に犬養理事からも、昨年開設されたホームページの魅力化を、具体例を挙げて提案、検討した。その他、7月事務局移転の報告などがなされた。



#### General Assembly

JD General Assembly was held in Tokyo on June 7, 2000. Following the President's remarks, the action and financial reports, and the auditor's report for 1999 were presented. After viewing the video on the Design for the World '99 Symposium prepared by Mr. Yagyu, the assembly discussed and approved the draft action program and budget for 2000.

Besides the on-going programs, researches on vehicle society and water environment will be newly initiated. Hiroshi Sano and Tomoko Inukai pointed out the importance of "Communication Design" to cope with the IT Revolution and the need to improve the JD Homepage.

#### 日本フィンランドデザインシンポジウム



前号で紹介した日本フィンランドデザイン協会の交流シンポジウムが6月19~23日ヘルシンキで開催されました。建築、インテリア、プロダクト、テキスタイル、ジュエリーなどの各分野のデザイン関係者が両国からそれぞれ約10名ずつ集い、テーマ「静けさのデザイン」を巡って意見交換が行われました。(伊坂 正人)

日本側参加者:栄久庵憲司、島崎信、石山修武、伊藤隆道、鳥越けい子、中山あや、わたなべひろこ、伊坂正人、村井大三郎 フィンランド側参加者:ヘルシンキ美術大学長 ヨロ・ソタマ他

#### 関西地区でミーティング



去る6月17日大阪で、日本デザイン機構の関西会員による昼食会をかねたミーティングが催された。今後の関西地区における活動のあり方などについて、熱心な議論がたたかわされ、今後さらなる組織の理解、活動を拓げてゆくため、デザイン機構としての「デザインの定義」の必要性、小中学生からのデザイン教育のあり方などの意見が出た。(佐藤 典司)

#### Japan-Finland Design Symposium

Japan-Finland Design Symposium was held from June 19 to 23 in Helsinki, Finland. About 10 designers each from the two countries gathered representing architecture, interior, product, textile and jewelry design genres. (Isaka)

#### Meeting in the Kansai Area

JD members in the Kansai area had a meeting over lunch on June 17. They discussed what action they should take in their area, the need to define "design" is the first step to encourage people's interest in design, and they determined to expand their activities, and that design education should be given to school children from the elementary school level. (Noriji Sato)

### 編集後記

「県側は新世紀の記念事業的なものをと市民などで構成の委員会に諮ると、30分程で廃案となり」と湖国21世紀記念事業協会の木村さんの発言。30分は、説明を聞いてすぐの時間でしょう。ここにもいわゆる「民間」の意識の進み具合を見る思いです。「行政」は遙か後ろに離され、「もういい!」と部下にいわれたのです。世界湖沼会議(学会会議)を当地に誘致したのなら、湖と共に暮らす我々もこれを機に国際市民会議を開こうと、どこに足を付けて生きているかの意識が鮮明です。

20世紀も終わる今、じわっと反省できる意識の変化と、新しい質への変化が見え(栄久庵)、マスではない、地域の、あるいは個々人に適した使いよさ、美しさ、持続できる価値のデザインが澎湃として生まれ来たるようです。重負担の公共投資からライトインフラへ、すぐ結果の出る目先より、緑を育てるように将来の市民のたしなみを身につける教育投資の仕掛けづくりなど、21世紀をはっきり展望する号となりました。(迫田 幸雄)

#### VOICE OF DESIGN VOL.6-1

2000年7月15日発行

発行人/栄久庵憲司 編集人/佐野邦雄

編集委員/迫田幸雄(委員長)、鳥越けい子、黒田宏治、南條あゆみ(事務局)

翻訳/林 千根

発行所/日本デザイン機構事務局 〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-2-18 虎ノ門興業ビル7F

印刷所/株式会社高山

#### VOICE OF DESIGN Vol.6-1

Issued: July. 15. 2000

Published by Japan Institute of Design

1-2-18 Toranomon, Minato-ku, Tokyo 105-0001 Japan

Phone: 81-3-5521-1692 Fax: 81-3-5521-1693

Publisher: Kenji Ekuan/Executive Editor: Kunio Sano

Chief Editor: Yukio Sakoda/Translator: Chine Hayashi

Printed by Takayama inc.

#### Editor's Note

The prefecture proposed to the Committee composed of the representatives of citizens that an exposition be organized. But the Committee refused the idea with in half an hour (Mr. Kimura of the Shiga 21st Century Memorial Project Association). Here, I feel the growing consciousness of citizens about their community. They said "No" to the proposal by the government, as they are aware of where they stand.

At the turn of the century, the consciousness of both designers and people is changing. There are signs that designs for individuals that will be long cherished will be created. I hope this issue gives an insight into design directions in the new century. (Yukio Sakoda)